

売渡相手先と数量(ト)：

L	O	P	S	16.8
京	ま	ろ	ん	8.4
アンピカコーポレーション				17.2
J-オイルミルズ				9.0
合計				51.4

【輸入入札】対象数量184.7ト、応札51.4ト、落札51.4ト、落札平均価格1*、1348,480円。【売渡入札】落札平均価格1*、1373,432円。

今戸食品工業	150.6
東、神、商、事	142.7
合計	293.3

【輸入入札】対象数量293.3ト、応札442.7ト、落札293.3ト、落札平均価格1*、262,881円。【売渡入札】落札平均価格1*、271,203円。

同年度の乳製品輸入枠（カレントアクセス分の生乳換算13万7000ト）は30日にSBS入札を開催する。バター325・8トを残すのみ。全量消化が見込まれている。

◎ 脱粉振替分のバターオイルとホエイ全量落札農畜産業振興機構は29日、バターオイルとホエイの売買同時入札（SBS方式）を実施した。脱脂粉乳の今年度輸入枠の残枠を振り替えたもので、その分は全量落札された。入札結果は「表」の通り。今年度の脱粉輸入を巡っては当初、国際約束に基づき750トの輸入枠を設定していたが、国内需給の緩和から不落となったため、残枠429トを今回バターオイルとホエイに変更して応札を募った。

◎ テトラパック、学乳容器に植物由来の新包材
日本テトラパックは30日、4月の新年度から、学校給食牛乳向けの「テトラ・ブリック紙容器」について、コーティングに植物由来ポリエチレンを使用した新包材を導入すると発表した。これにより同容器の再生可能資源比率を現在の77%から99%へと高め、バリユーチェーン全体で約23%の二酸化炭素(CO₂)削減を図る。
同社によると、紙容器のコーティングに植物由来ポリエチレンを使用した新包材の採用は、国内で流通している学乳用紙容器で初めて。現在、同容器の学乳供給開始を予定しているのは、いかるが牛乳とオーム乳業、九州乳業、四国乳業、泉南乳業、チチヤス、森乳業の7社で、全国2580校の小中学校で提供されるという。
同社は「新包材の導入には乳業工場設備投資が不要なこともあり、さらに複数の乳業メーカーが導入を検討している」としている。同社は新包材の生産設備拡充や今後の供給体制確保も目的に、御殿場工場（静岡）に2023年度からの2年間で総額約49億円を投資する計画だ。
使用する植物由来ポリエチレンはサトウキビ由来。同社の学乳用紙容器が全て新包材に切り替わると、年間1100トの化石由来プラスチック削減につながるという。